

<ポイント版> ぎふ経済レポート（平成 27 年 1 月分）

【景況感】

景気回復の足踏みが続いている。

【製造業】生産、売上は輸送用機械関連を中心に好調を維持

○製造業全体では輸入原料の高騰によるコスト高が続いているが、輸送用機械関連を中心に受注や生産は好調を維持しており、大型の設備投資の動きも見られる。

【地場産業】一部の業種を除いて厳しい状況が続いている

○消費増税前の駆け込みで好調だった木工も受注や生産が例年並みに落ち着き、他の業種については依然として消費意欲の減退や海外製品との競合、原材料費の値上がりなどにより厳しい状況が続いている。

【個人消費】消費の回復状況に頭打ちの感が見られる

○雪の影響もあり、売上、客数ともに前年の水準を下回る小売店が見受けられた。衣料品のほか、特に自動車や家電など高額品は低調であり、買い控えが進んでいる感がある。

【観光】インバウンドは好調を維持

○施設によってバラつきはあるものの、宿泊客数は前年を上回った。インバウンドも、オフシーズンであるが、東南アジア、中国、台湾などが伸びに、前年比で好調を維持。一方、トータルで見た観光入込客は前年比で低調であった。

【雇用】業種全般において人手不足が発生している

○製造業については、専門職を除き、人手不足は解消されつつある。一方、非製造業については、人材確保に努める企業が多数見受けられるが、求職者は職種や条件を吟味する傾向にあり、人手不足に陥っている。

【設備投資】投資実績は増加傾向も、投資意欲には一服感が見られる

○投資実績は増加傾向にある。設備投資の目的のうち、「生産能力拡大・売上増」といった前向きな設備投資が増加し、「合理化・省力化」や「補修・更新」が減少。設備投資意欲は減少傾向にある。

【資金繰り】資金繰りは改善傾向

○新規融資実績は減少傾向にあるが、借入難易度は緩やかながらも着実に改善している。